

# アール

～ 女性建築士の輪 ～

奈良県建築士会 女性委員会  
2018年 夏号  
第94号



春の見学会 松屋本店

---

---

## 目次

---

---

■ 感謝	西尾 弘江	P 1
■ 春の見学会「吉野杉・吉野松の建物訪問」	梶谷 治美	P 2-4
■ 連合会女性委員会「魅力ある和の空間ガイドブック」	岩城 由里子	P 5-7
■ 私の好きな・・・吉野松	梅田 裕子	P 8
■ 新会員紹介	阿部 智子	P 9
■ ご報告 — 平成 30 年度通常総会		P 9
■ 今後の事業予定		P 10

## 感謝

西尾 弘江



とうとう私も 80 才になり、終身会員となった。6月16日には女性委員会でお祝を下さった。橿原観光ホテルでおいしい食事を楽しくいただいた。そして記念品まで・・・、嬉しかった。

ありがとうございました!!

昭和 32 年に吉野工業高等学校建築科を卒業以来、ずっと仕事を続けてこられて、感謝の気持ちでいっぱい。経済成長もあり、技術が発達していった良い時代だった。T 定規と三角定規の時代からドラフターになり、今はコンピューターだ。もうついていけない。図面はもう描けないし仕事もないので設計事務所は閉じ、今は椋本工務店で現場監理をしている。会社は文化財の建物を手がけている。茅葺屋根だ。安堵町の中邸や五條市大津町の念仏寺陀々堂・・・など。茅は青森県産。中邸では、京大農学部の先生やインドネシア大学の先生まで見学にこられ、日本の葺き方はきれいだとほめて下さった。日本人は手先が器用だ。



終身会員 表彰式 総会にて



五條市大津町 念仏寺陀々堂



終身会員 祝賀会にて

もうちょっと仕事をしたいが、もう辞め時だと思う。来年5月には車の免許更新だ。高齢者の事故が多いので免許証返納も・・・。

長い間仕事が出来て幸せだった。女性委員会の皆様にもお世話になりました。本当にありがとうございました。

## 春の見学会

### 『吉野杉・吉野桧の建物訪問』

梶谷治美

平成 30 年 5 月 12 日(日)晴、前日の寒さを忘れてしまいそうな暖かな日となりました。

吉野川の川辺の吉野杉の家から見学会は始まりました。

## 吉野杉の家

### ～宿泊可能なコミュニティ交流の場～

大きな二本の檜の木の間に可愛い家が建っています。木造二階建て、木皮葺き(レッドシダー)、吉野杉を使用。縁側から入って、一階は食堂、台所、洗面所、トイレ、シャワールーム、納戸があります。長いテーブルは 20 人はゆったりと座れ、ミーティングに最適の様です。

吊り階段を上って二階の部屋は階段をはさんで寝室が二部屋。部屋の中に入ると、正面の三角窓から明るい光と木洩れ日が溢れています。寝室の天井には電気は無く、夜は窓からの星あかりと月あかり、床に置かれた小さなフロアランプが全てです。階段に足元灯はありますが。

床は少し汚れやキズがつきますが、コーティングなどせず削って木地を再生し、木の汚れを落とし香りを取り戻すことができます。痛みのひどい時は、材料も近くにあるのですぐに取り替え可能なのです！

この家はハウスビジョン 2016 東京の展覧会に出展され、「暮らすように旅をする」をテーマに、民泊を世界にアピールしています。

出展後には吉野川のほとりに戻り、民泊を地域の木材関係者と町内のみなさんが一緒になって運営されています。世界中から予約がある様です。



吉野杉の家 室内



吉野杉の家 外観

## 銘菓「吉野拾遺」松屋本店

### ～和の空間のリニューアル例～

通りに面した店先は、以前と変わっていない様に見えます。店の中では壁を動かすことができないこともあり、補強、塗り替えを行っています。店の奥には囲炉裏があります。腰掛けてお茶をいただけるようになっていました。壁にはご主人が集めておられた花頭窓が取り付けられ、昔からずっとそこにあるかの様でした。天井が高くなっており、圧迫感が無くて気持ち良い居心地でした。

ここで、お茶とお菓子をいただきました。

次へと向かいます。



店内



店の外観

## 三奇楼

### ～料亭旅館の一部を残してゲストハウスに建替～

吉野川を渡って三奇楼へ向かいます。門は鋳物で線が細く、とてもモダンな感じです。2016年秋に、元料亭旅館を地元の有志の方が中心となって建替え、「ゲストハウス\*移住体験スペース三奇楼」として宿泊や日帰り、イベントに利用されています。

玄関を入ると高い靴箱があり、大人数でも良さそうです。一階には和室・10畳、6畳、共有スペース、キッチン、ダイニングがあります。二階には和室・8畳半、6畳、トイレは一階、二階共にありました。蔵は、「蔵 bar」となっており、落ち着いてお酒を楽しむことができそうです。はなれば、マッサージの方が使用されているとのことです。二階からは川向こうの風景を見ることができます。川辺に貯木場があったのですが、今は太陽光発電所になっており、こうして風景も変わっていくのでしょうか。

三奇楼を説明してくださった南さんによると、一階には未だに用途の決まっていない部屋があるので、いいアイデアがありましたら、との事でした。

二階の部屋で昼食、「平宗」のお弁当をいただきました。お味噌汁は持ち込みです。美味しくいただきました。ご馳走さまでした。食事の後はお部屋を見て回り、アンケートに記入して、最後にデッキにて集合写真を撮りました。



門



蔵 bar

### 【アンケートの結果】

今回、見学会に参加しようと思ったのは？

- 企画に興味があった・・・13人
- 距離的に近い・・・4人
- 日時があった・・・6人
- その他（おさそいがあり）・・・4人

今後どのような企画があれば参加したい？

- 古い建物の改修。
- 地産の材料。
- 空き家再生、活用。
- 町おこし物件を見学。

女性委員会の活動についてご自由にどうぞ。

- 女性だけでなく、一般の方もできる内容の企画。
- 多くの人が少しずつ担当して活動できれば。

以上のようなご意見をいただきました。  
次は川向こうに渡ります。



### 株式会社櫻井 吉野産材集成材の製造販売会社 木造二階建事務所 減圧乾燥材

お昼からは、株式会社櫻井へ車で移動し、まずは減圧乾燥機を見学しました。機械は箱型が3機、丸型1機が並んでいます。機械の裏側には減圧を操作する熱い部屋がありました。機械は全てコンピュータ制御で行います。減圧乾燥により、背割りの無い、表面乾燥による割れもない強度の高い、芯まで乾燥した材料を生産することができるようになったそうです。色や艶、においがのこっていました。ただ、木のアクは小口に出ています。

次は製材行程を見学。コンピュータ制御により全自動で芯材角、辺材板の木取りを決定して製材されるところを見学し、木材の性能を検査して出荷製品、一本一本に印字されるグレーディングシステムを見学しました。もちろん、昔からの製材品もあり、管理する大変さを感じました。

事務所の前に、集成材、乾燥材で大きな柱、梁材を展示してくださいました。事務所の二階の会議室にて、会長さん、社長さんから集成材、減圧乾燥材に対する熱い話をお聞きし、事務所内の見学をさせていただきました。

事務所は木造二階建て、一階を事務所、二階を会議室、社長室とし、材料に減圧乾燥材と集成材を使い分け、柱や梁を見せて建ててあり、内装的にも色使いが考えられた建物でした。事務所の一階の裏手には、職人さんたちの休憩室がありました。

では、最後の見学に行きましょう。

## 吉野製材工業協同組合 吉野材センター

車で移動すること3分の所にセンターがあります。ここでは、吉野杉、吉野桧を扱い、全国に販売しています。月一回の展示即売会をしています。個別にも相談に応じることができるそうです。

センターの倉庫には、部材、材質、用途に応じてたくさんの材料が並んでいます。奈良県産材は年輪幅が狭く、害虫に強いと考えられ、試験でも検証されています。

倉庫の方には、カウンターに使える厚くて長い一枚板が並んでいました。「この材料を使ってみたい」という声が聞こえてきました。倉庫の横には、吉野杉や桧の生活用品の展示、販売所があります。日曜日以外は購入可能です。

最後に「奈良県産材がもっと奈良県内で使ってくださいます。」と言っておられました。



減圧乾燥機



帯鋸製材機（高速製材機）



センター 外観

これで見学会は終了です。  
皆さま無事に帰宅されましたでしょうか。  
次の見学会を楽しみにしています。

連合会女性委員会

「魅力ある和の空間ガイドブック」

岩城由里子

日本建築士会連合会女性委員会では「和の空間を体験して、その魅力を再認識できるような建築や空間を紹介するガイドブック（web版）」を作成し、全国各地の魅力的な和の空間や、これからの居住環境への示唆に富んでいるものを紹介することになりました。

奈良からの推薦物件を決めるにあたり、女性委員の皆様アンケート調査を行った結果、志賀直哉旧居、慈光院、今西家書院、中家住宅の4物件を推薦することになりました。取材及び記事編集は、本保前委員長、庄田委員長、山本氏、岩城の4名で担当させて頂きました。記事より一部抜粋をして紹介させて頂きます。

#### ■志賀直哉旧居



志賀直哉旧居は直哉自らが構想し、京都の数寄屋大工の下島松之助が昭和4（1929）年に竣工させた住宅である。直哉が昭和13（1938）年に転居した後は個人に売却され、昭和22（1947）年から26（1951）年まで米軍に接收された。返還後は、厚生年金保養施設として利用されていた。昭和50（1975）年に老朽化のため建替えが計画されたが、近隣住民を中心として保護運動が展開され、昭和53（1978）年に奈良学園がセミナーハウスとして買収した。平成21（2009）年には建築当時

の姿に復元修理され、平成28（2016）年に奈良県指定有形文化財となった。建物は、昭和初期の文人宅に相応しく、上質で落ち着いたものである。全体構成は、数寄屋造りを基調とし、各所に近代的な洋風意匠を加えるが、各要素は破綻なく見事に調和している。志賀直哉は、日記や手紙の中で住宅に対する考え方を明確にしており、自身を表現する方法のひとつとしてこの建物があつた。



北棟は、書斎、茶室といった内証的な場であつた。一方で、南棟は「高畑サロン」と呼ばれ直哉を慕う多くの文人画人が集ったサンルーム、食堂を配し、公の場であつた。また、子供部屋を中心に構成された南東棟は、配置、窓の取り方など随所に家族の絆を大切にした直哉の思想が伺える。

## ■ 慈光院



慈光院は、当地の大名であり茶道石州流の祖である片桐石見守貞昌(石州)が、1663年(寛文3年)に父の菩提寺として建立。片桐石州の茶の教えは、徳川家綱、水戸光圀や大名の多くが学んだ。

一之門から鬱蒼とした霰零しの石畳を歩いて行くと茅葺きの茨木城楼門がある。片桐且元の撰津茨木城の楼門(櫓門)を移設したこの門をくぐると、明るく開けた庭があり、その先の右手に、大きな茅葺きの書院がある。左手には寺務所棟、書院の北側に渡り廊下で繋がる別棟の本堂がある。書院の北東と北西に趣の異なる2つの茶室、二畳台目の高林庵と三畳の閑の席(逆勝手)が配されている。寺としてよりも、境内全体が一つの茶席として造られており、表の門から建物までの道、座敷や庭園、露地から小間の席までの全てが、石州の演出そのまま三百年を越えて眼にすることができる貴重な場所となっている。書院からは東南方向に庭園(史跡及び名勝指定)と大和平野の借景を見渡すことができ、庭屋一如のごとき空間は他に類を見ず圧巻である。全体的に天井や鴨居の高さが低く抑えられ、座敷に座ったときに最も安らぎや落ち着きが出るように考えられている。

建築には地域の材が使われており、全体に装飾は排除され、華美を排した佇まいに高い精神性が表れており、簡素にして品格のある和の空間である。石州がこだわって造った重要文化財の手水鉢やつくばいも趣を添えている。



## ■ 今西家書院



今西家書院は、永く興福寺大乘院家の坊官を務められた福智院氏の居宅を、大正13(1924)年に今西家が譲り受けた。一説には大乘院の御殿を賜り移築したものとも伝えられている。昭和12(1937)年8月25日、国宝保存法により民間所有の建造物として初めて国宝の指定を受けたもののひとつである。その後文化財保護法の施行に伴い、昭和25(1950)年、重要文化財となった。書院造の初期(室町時代)の遺構。角柱・畳敷・障子・襖・棹縁天井等は現代住宅の和室の基本に通じるもので、和室の原点を感じることができる。



庭に面する二つの間（書院）は建築当時は板敷きだったところを、江戸時代に床の間が造られ畳敷きの二間になった。鴨居ははめ込み式で、鴨居と敷居を外すと元の板敷きの一間に戻すことができる。また、一本の敷居溝に二枚の障子が入る猫間障子は、縦の棧が同じ幅となっており、閉じると大きな障子に見え、端正な美しさを醸し出している。双折板扉は、大陸から伝わった古い形式の外開きの建具。中塗り壁に何重にも和紙を貼り重ねられた壁など、寝殿造の名残りもあるが、入母屋造軒唐破風や檜皮葺屋根などに堂々たる書院造の魅力を十分に味わうことができる。

## ■ 中家住宅



中家住宅は、大和川北岸に残る大和地方の典型的な環濠屋敷。屋敷は外濠と内濠の二重の濠に囲まれ、中世土豪の平城式居館の姿を今に伝える。

大和棟形式の主屋は大変美しく「日本の民家シリーズ」の切手のモデルにもなった。

中氏の祖先は武士として足利尊氏に従い大和に入り、その後帰農し、大地主となって現在に至っている。そのため、建物は武家造りと農家造りを併せ持つ造りになっている。主屋は万治二年（1659年）頃の創建と推定され、新座敷には安永二年（1773年）の棟札がある。その他、表門、持仏堂、庫裏等、9つの建造物と、宅地、濠、竹藪が重要文化財に指定されている。現在も邸内に居住されており、まさに生きる重文民家である。



主屋の土間には11の焚口を持つ国内最大級の竈がある。曲がりの強い大きな地松丸太組みの架構は大変特徴的である。また、新座敷をはじめ、「蒸し風呂」や、内濠で観月会（船遊び）をする為の「入り船の庭」等、風流なおもてなしの場がある。新座敷には”月にむら雲、波に兎”の意匠が彫られた欄間や、狩野派の絵師により描かれた襖がある。釘隠し等の金物も上質なもののばかりで見どころが多い。空間全体から高い品格が感じられる佇まいである。

私の好きな・・・吉野桧

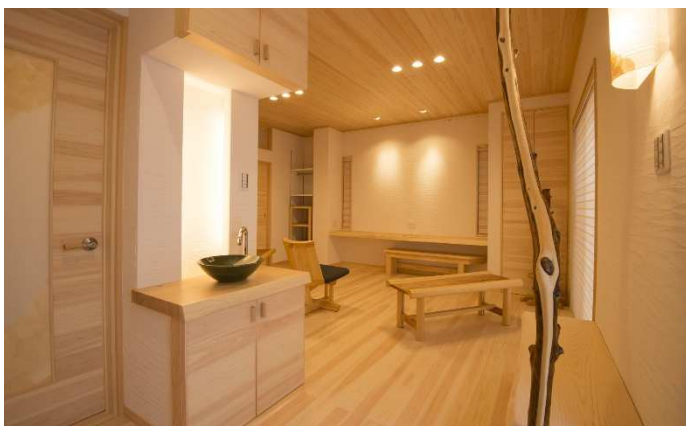
梅田 裕子

経理が専門職だった若いころ、とあるきっかけで建築に関わり大工に転職することになり、木材との出会いがありました。

当時の私は、柱や造作材は、すべて工業製品で、綺麗に商品として仕上がったものを使って施工するものだと錯覚しておりましたので、初めて柱を加工するときのショックはかなりのものでした。私にとって、イケてない世界に首を突っ込んでしまったと、これはとても面倒くさい仕事なのではないかと気が付き始めていました(笑)。気付いたものの、実際に柱を加工し、プレーナー掛けや超仕上げをする内に、その木の持つ香りと肌触り、木目の美しさに魅かれていき、最終的には木材の買い付けの為に、競り市にも参加するようになりました。その木は山口県産の桧です。山口県の桧は、最高だなと当時は思っていました。

ご縁あって16年前に奈良県に移住し、木造建築の営業として転身、建築に関わってきましたが、子供の病気の介護で一時期建築を離れることになりました。その後、子供の快復とともに仕事復帰をして、ご縁をいただき、50歳半ばで今の会社に就職させていただくことになりました。

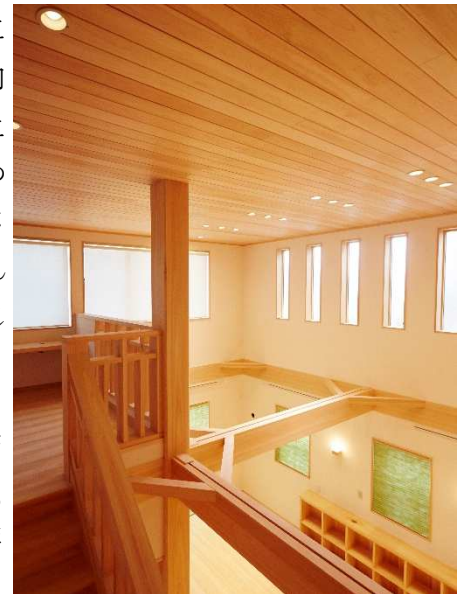
桧が大好きな私は、建築に関する仕事の最後として、桧を扱っている会社で働きたいと願っていたので、吉野桧の育林から製材、神社仏閣への納材、そして吉野桧を使った家づくりの提案をしているこの会社でのお仕事は願ったり叶ったりでした。



会社内に一步入ると、桧の濃厚な香り、ピンク色の木目の揺らぎ、それらに触れられ、携われることに感謝をしつつ、木造注文住宅のトータル営業として働かせていただいています。

奈良県産、特に吉野桧を構造や内装に使わせていただき、それが持つ特性の素晴らしさに日々引き込まれていっている感じです。

土台には吉野桧の赤身、柱は背割り有り、見せ梁には上小節の化粧材等々を使います。→



↑フローリング、天井壁板、テーブルや椅子、カウンターや飾り棚、照明器具や建具にも使用したり、ノベルティ企画等も行っています。↓



また、吉野桧の音を響かせるとどんな感じになるのだろうと思ひ、吉野桧のカホン(\*ペルー発祥の打楽器)のワークショップの企画もさせていたでています。→



これからも大好きな吉野桧と共に奈良の地で、癒しの空間造りを提案していきたいと思っています。



